

東与賀

higashiyoka

文責 田中泰司

佐賀市立東与賀中学校

前期を終え後期へ 「実りの秋」です！

気温の寒暖の差が激しい9月でした。雨が全然降らないと思ったら一転して大雨になるなど、日本全国どの場所でも災害被害が起りうる可能性が高まっています。

さて二期制を導入している本校にとって、あと少しで前期を終え、後期へと向かいます。東与賀中学校に戻ってきて約半年が過ぎました。その中でホッとしたり感動したりする場面が数多くありました。良いところがたくさんある生徒たちです。

その反面、気になることも目につきました。三年生にとっては卒業まで残り五ヶ月と少し。二年生も折り返しを過ぎて残された時間のほうが短くなりました。「実りの秋」を迎えるために勉強も行事も一丸となって一緒に走りましょう！

「大人」になるって？

皆さんは「大人」ってどんな人のことだと思いますか？十八歳以上の人、落ち着いている人、自分の考えをしつかりと持っている人：様々な条件があるかもしれませんが私が思う「大人」の条件は、三つあります。

第一に経済的に自立している人（家庭）です。自分の仕事や才能を生かして、社会のために貢献している人や家庭です。個人でも家庭でもそれぞれの単位で国を支えている人たちが、「大人」だと思います。

第二に気遣いができる人です。例えば、人を不快にさせない振る舞いや服装、発言を心掛けている人を指します。「自分さえ良ければよい」という考えの人は、その場に合った言動を適切には判断できません。自分だけの基準やルールで振る舞い、周囲を不愉快にさせてしまいます。皆が暮らしやすい社会にしていけないことは、やっていいこと、いけないことを正しく見極め

実行することが必要だと考えるからです。

そして第三に、自分の非を素直に認め、謝ることができる人です。どんなに素晴らしい人にも間違いや過ちがあります。そんな時に言い訳をしたり、開き直ったりすることなく、その非や間違いを認めて、ちゃんと謝ることができる人は、本当に素晴らしいと思います。

また、その謝罪を受け入れて許すことができる人も大人です。年齢や性別関係なく、そういったことができる人に出会ったら私はその人を心から尊敬します。

「〇〇ファースト」という言葉が一時期もてはやされましたが、私は好きではありません。なぜなら相手意識をもち、相手に敬意を払うことが大人への第一歩だと思うからです。自立した「大人」になるために、今のうちから少し意識して、行動に反映させてみてくだ

二人で一本！

未経験のソフトテニスに関わってから約二十年が経ちました。教員生活のほとんどをソフトテニスと共に歩み、初めは慣れないことも多かったですが今はその魅力を実感しています。

ソフトテニスの良い所は、運動能力が高なくても練習と戦略、ペアとのコンビネーションで十分戦えるところです。サーブをどのコースにどの強さで入れるか、ペアでどう動くかなど、常に考えながらペアでプレーしなければならず、非常に頭を使います。狙い通りに組み立ててポイントが取れたときには、本当に気持ち良いです。

ソフトテニスは、二人一組のダブルスが基本で、「個人戦」なのにダブルスです。ですから自分のことだけではなくペアのことも背負う責任が生じます。

ペアによって1+1=2の力がそれ以上になったり、ダウンしたりします。その理由は明確で、相手に不満をもっているペア、自分の意思を伝えきれていないペア、元気がなく声も出さないペアはどんなに力があっても勝てません。それは試合の流れをもつて来ることができずに自滅してしまうからです。

相手のあるスポーツは、たとえ実力差があっても、相手が勝手に自滅してしまうことがあります。

ます。テニスはメンタルスポーツなので大逆転が起こる可能性があります。「うまい」ペアが勝つわけではなく、「強い」ペアが勝ちます。その強さの根源は、「勝ちたい」という強い気持ちと、パートナーに対する「信頼感」だと思います。

二人で厳しい状況を切り抜けてきた経験の蓄積が、勝負強さにつながるのです。そういう関係性をつくり上げるのは簡単ではありません。お互いを認め合い、時にはぶつかり合って結果を少しづつ積み上げた証なのです。

弱いペアは「パートナーがミスしたから負けた」だから、「ペアを変えてほしい」とすぐに相手のせいにしてしま

す。私は何千試合と見てきましたが、一方のせいだけで負けた試合は一つもなく、原因が両方にあります。1+1=1以下のペアはそれが分かっているのです。勝つためにどうするべきかをペアで一緒に考え、そして最後まで諦めずに戦う姿勢を貫き、二人で一本を取りに行くのがソフトテニスです。

創部以来初の県大会を決めた試合の、最後のボレーを今でも鮮やかに思い出します。そしてほぼ全員が高校でも続けてくれたこと、同窓会で「また□□と組みたい」と当時のペアのことを懐かしんだこと。性格や考え方が違っても、試合で勝つという共通の目標に向け、お互いに認め合い、協力し合っ

て一本を取りに行く。誰にでも気軽に取り組み、そして人間的に成長できる、奥が深いスポーツです。